

## ■ 書 評



私の臨床精神医学  
—一大精神科講演録—

神庭重信 編著

中尾弘之, 稲永和豊, 前田重治, 西園昌久, 神田橋條治, 村田豊久, 内村英幸, 三山吉夫, 山上敏子, 牛島定信, 田代信維, 前田久雄, 森山成林, 池田數好, 黒木俊秀, 川崎弘詔 著

創元社

2014年5月 372頁

本体価格 3,500円+税

「着任してすぐ包み込まれたものは、九州大学精神科のもつエトスであった。それは、臨床と研究への情熱であり、精神療法と精神病理の香りであり、それらすべてを包み込む自由であった。精神療法から神経科学までの、そして発達障害から認知症までの専門家がそろっていて、それぞれに一流であろうとしていた。これは教室が百年以上の年月をかけて築き上げてきた貴重な学風である。」という編著者による「まえがき」の書き出しは本書の内容全体を見事に、そして的確に表現している。編著者は、精神科教授として初めて九州大学に着任して以降、教室の歴史と業績に強い関心を示し、同門の人々と積極的に交流する中で、わが国の精神医学界で高名な九州大学精神科同門の先生方に臨床や研究の歩みについて定期的に話をうかがう機会として「福岡精神医学研究会」を創設した。本書は、その過去10年間の講演記録を中心にして、編著者の九州大学教授就任十周年記念としてまとめられたものである。

内容は、第五代教授中尾弘之の序に始まり、福岡精神医学研究会での13講演と、編者(第七代教授)による第24回日本総合病院精神医学会総会での会長講演、池田數好による特別講演「森田療法雑感」と続き、最後に九州大学精神科の歴史を俯瞰するような、わかりやすい解説として「あとがきにかえて」が添えられている。13の講演は研究会の日付順ではなく、演者の九州大学精神科入局

順に掲載されている。演者には、稲永和豊, 前田重治, 西園昌久, 神田橋條治(2編), 村田豊久, 内村英幸, 三山吉夫, 山上敏子, 牛島定信, 田代信維(第六代教授), 前田久雄, 森山成林(帚木蓬生)と実に多士済々、あらゆる領域にわたって、その道を極めた重鎮の名が並ぶ。

本書は、10年以上にわたって定期的に行われてきた講演を集めて構成されており、その内容も広範にわたってバラバラであるにもかかわらず、お互いの強い結びつきを感じずにはいられない。全編の底辺に共通して流れるのは、冒頭にも紹介した、九州大学精神科のエトスであり、臨床と研究への熱き情熱である。そして、その中心にあるのは、躁うつ病の「執着気質」で有名な第二代教授下田光造であろう。下田の薫陶を受けた多くの門下生が、全国各地に活躍の場を拡げ、数々の業績を残して、わが国の精神医学界に西南学派としての脈々たる一画を築いた。まさにその息吹を感じる一冊と言える。下田の輝かしい業績とともに、その人となりに触れた箇所も多数見られ、その歴史的背景の解説ともに大変興味深い。また、森田療法が九州大学で独自の発展をとげた背景やその具体的な手法がいたるところで紹介され、森田療法への多面的な理解の一助となった。

一つ一つの章は一講演として完結しており、それぞれの内容が濃く、大変得るところが多いが、時代背景と併せて考えると、本書は百年を誇る九州大学精神科教室の歴史的な記録としても大変貴重である。それぞれの大学精神科には長短あれども歴史があり、それぞれの地域事情や時代背景が異なっている。本書を通じて、これまでの歴史を振り返り、改めて現在の立ち位置を確認して、今後の方向性を模索していく作業は非常に重要であり、特に昨今のように、著しいスピードで環境変化が押し寄せてくる時代にあつては、自らを見失わないために大事なプロセスであることを改めて痛感した次第である。良質で有益な講演記録としても、大学精神科の貴重な歴史的な記録としても、そして、わが国の精神科の歴史背景を知るためにも一読をお勧めしたい好著である。

(久住一郎)